

## 創世記21 創世記11章27節～12章3節

### 「アブラハム契約」

#### イントロ：

##### 1. 前回までの復習

- (1) 創世記には11の区分（トルドット）がある。
- (2) きょうの箇所は、第6の区分「テラの歴史」である。
- (3) これまでの5つの区分と比べると、非常に長い（11：27～25：11まで）。
- (4) アブラム（アブラハム）の重要性

##### 2. メッセージのアウトライン

- (1) 登場人物の紹介
- (2) 旅の始まり
- (3) 神の命令 (1)
- (4) 神の命令 (2)

##### 3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) アブラハムと神の友情の始まり
  - ①彼は、3回「神の友」と呼ばれた（Ⅱ歴20：7、イザ41：8、ヤコブ2：23）。
- (2) アブラハム契約の始まり
- (3) イスラエルの民の選びの始まり
- (4) 異邦人の救いの始まり

このメッセージは、4つの始まりを教えようとするものである。

#### I. 登場人物の紹介

##### 1. テラの3人の息子、アブラム、ナホル、ハラン

##### 2. ロト

- (1) 「ハランはロトを生んだ」という文が挿入されている。
- (2) その理由は、ロトが後に演じる重要な役割のゆえである。
- (3) ロトの父ハランは、若くして亡くなり、アブラムが甥のロトの父親役を務める。

##### 3. ミルカ

- (1) ナホルはミルカを妻に迎える。
- (2) ミルカは兄の娘なので、姪に当たる。

#### 4. サライ

- (1) アブラムはサライを妻に迎える。
- (2) サライは、異母姉妹である。
- (3) 「サライは不妊の女で、子どもがなかった」とある。物語の展開の重要な要素になる。

#### 5. テラ

##### (1) 偶像礼拝者

「…アブラハムとナホルとの父テラは、昔、ユーフラテス川の向こうに住んでおり、ほかの神々に仕えていた」(ヨシ24:2)

- (2) 当時ウルは月神礼拝の中心地であった。

## II. 旅の始まり

1. アブラムは、「あなたの土地とあなたの親族を離れ、わたしがあなたに示す地に行け」という神の声を聞いた(使徒7:2~4)。
2. その地がどこかは、この時点では不明。
3. テラとその家族は移動を開始した。
  - (1) 「カナンの地に行くために」とあるのは、著者の視点。
  - (2) 行き先は分からない。
4. テラは、カランまで来た時、そこに住み着いた。
  - (1) カランは、その地域で最も重要な町の1つで、ウル同様、月神礼拝の中心地。
  - (2) 結局テラは、205歳になるまでカランに留まり、そこで死ぬ。
5. 神の語りかけがアブラムにある。彼は、神からの直接の語りかけを7回受けている。
  - (1) 1回目は、創12:1~3。彼は、カナンの地の外で神の声を聞いた。
  - (2) 2回目は、創12:7。カナンの中に入ってから、彼は神の声を聞いた。
  - (3) 3回目は、創13:14~17で、ロトと分かれた直後。
  - (4) 4回目は、創15:1~21で、アブラハム契約締結の時。
  - (5) 5回目は、創17:1~21で、アブラハム契約のしるしとして割礼の命令を受けた時。
  - (6) 6回目は、創18:1~33で、ソドムの滅びの予告を受けた時。
  - (7) 7回目は、創22:1~2、11~18で、イサクを犠牲にせよとの命令を受けた時。
7. すべてが、アブラハムの生涯のターニングポイントとなっている。
8. この箇所は、アブラハム契約が初めて紹介される箇所である。

## III. 神の命令 (1)

1. 創世記12:1~3の構文:命令形が2度、それに付随した祝福がそれぞれ3度出てくる。

2. 「あなたが『なにになに』をすれば、私はあなたに3つの祝福を与える。その祝福に感謝して、さらにあなたが『なにになに』をすれば、私はさらにあなたに3つの祝福を与える」

### 3. 最初の命令形（1節）

(1) 「行きなさい」：直訳すると、「自分のために行け」となる。

(2) 「あなたのためになるから、行け」ということ。

(3) 神の祝福の約束は、神が示す地に入ってから有効になる。

(4) これは、速やかに今までの生活環境から分離せよという命令である。

①あなたの生まれ故郷 ウル、ハラン

②あなたの親族

③あなたの父の家（テラはハランに留まったので、この言葉は重要）

④重要性の低いものから最も重要なものへの分離

(5) ヘブル 11:8 「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました」

### 4. 3つの祝福

(1) アブラムは、大いなる国民となる。大いなる国民とは、イスラエルの民のこと。

(2) アブラムは、神の祝福を受ける。霊的祝福と物質的祝福の約束。

(3) アブラムの名は、大いなるものとなる。

①ユダヤ教、キリスト教、イスラム教はすべて、アブラハムを信仰の父を仰いでいる。

②バベルの塔の事件では、人々は自力で自分の名を上げようとした（創11:4）。

③しかし、彼らの上には神の裁きが下った。

④ここでは、アブラムの従順さに答えて、神が彼の名を上げてくださる。

## IV. 神の命令 (2)

### 1. 第2の命令（2節）

(1) 【新改訳改訂3】「あなたの名は祝福となる」

(2) 【口語訳】「あなたは祝福の基となるであろう」

(3) 【新共同訳】「祝福の源となるように」

(4) 以上の訳の中で、新共同訳だけが「命令形」として訳している。

2. 「祝福の源となるように」という文は、命令形である。

(1) アブラムには、周りに人たちを祝福するという使命が与えられた。

(2) その例が、シャレムの王メルキゼデクに対する祝福。

(3) 彼はアブラムから祝福を受け、戦利品の10分の1を贈られている（創14章参照）。

### 3. 3つの祝福

- (1) 「あなたを祝福する者をわたしは祝福する」
  - ①この約束は、後になると、イスラエルの民全体に適用されるようになる（民24：9）。
  - ②この約束は、今も有効である。
- (2) 「あなたをのろう者をわたしはのろう」
  - ①最初の「のろう」は、ヘブル語の「カラル」で「軽んじる、軽蔑する」という意味。
  - ②次の「のろう」は、ヘブル語の「アオール」で「垣根を立てる、近づくことを禁止する」という意味。つまり、最初の「のろう」よりも、次の「のろう」の方が強い表現になっている。
  - ③ユダヤ人を少しでも軽蔑した者は、神から厳しい処置を受ける。
- (3) 「地上のすべての民族は、あなたによって祝福される」
  - ①これが、イスラエルの民以外にまで広がる唯一の祝福である。
  - ②これは、「異邦人の霊的祝福」の預言である。
  - ③このことは、何度も再確認される。
    - \*アブラハムに対して（22：18）
    - \*イサクに対して（26：4）
    - \*ヤコブに対して（28：14）
  - ④預言者たちは、異邦人の祝福は「アブラハムの子孫であるメシア」を通して成就すると預言するようになる（イザ42：1、6、49：6、アモ9：11～12参照）。

## 結論

1. アブラハムと神の友情の始まり
  - (1) 彼は3度、「神の友」と呼ばれた。
  - (2) 神の友としての歩みは、分離から始まる。
  - (3) 分離のための分離ではなく、祝福をもたらすための分離である。
2. アブラハム契約の始まり
  - (1) これ以降の聖書を読み解く大原則である。
  - (2) アブラハム契約の啓示は、徐々に行われる。
3. イスラエルの民の選びの始まり
  - (1) 最初は、アブラムという個人の選び。
  - (2) それが、民族の選びに発展していく。
  - (3) 全人類を救うための選びである。
4. 異邦人の祝福の始まり
  - (1) ペテロはペンテコステのメッセージで、創12：3を引用している（使徒3：25）。
  - (2) パウロは、創12：3と異邦人の救いを結び付けている（ガラ3：8）。